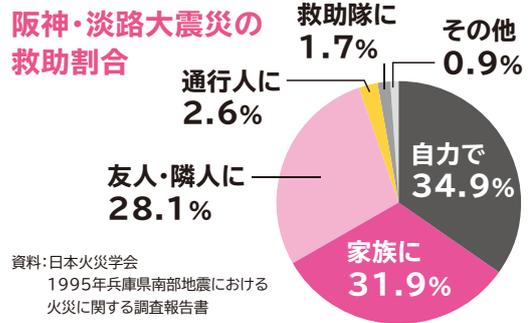


# 地域防災対策

## 自主防災組織とは

地域住民が「自分の地域は自分達で守る」という意識を持って、自主的に結成する防災組織のことです。地震や台風等の大規模災害では、行政の支援が遅れる場合があります、また避難行動要支援者の避難支援等は個人の力では限界があります。地域の皆さんが協力し合い防災活動を効果的に行うための組織が「自主防災組織」です。



### 普段の活動

#### 地域・家庭の安全対策

地域や家庭内の防災対策の確認や救護の必要な方の確認、避難経路の把握などを行う。また、防災知識の普及や意識啓発などを行う。

#### 防災用資機材などの整備

情報収集・伝達、初期消火、救出・救助、避難、給食・給水などに必要な資機材を備えておく。

#### 防災訓練の実施

災害を想定した避難所への避難誘導訓練や、炊き出しなどの避難所運営を想定した訓練を行う。

### 災害時の活動

#### 災害情報の収集

災害の正しい情報を集め、混乱のないよう住民に伝達する。

#### 救出・救助

災害の発生により、被害のあった人の救出・救助、負傷者への応急処置などの協力を行う。

#### 避難誘導・避難所運営

避難活動の中心的役割として、避難場所までの誘導や、避難所の開設・運営、給食・給水活動などを行う。



煙道体験



女性消防団員による救急法



消火器による消火訓練



起震車体験

Try!

# 防災訓練に参加しよう！



防災訓練の目的は、災害の基礎知識を得る、地域における個々の役割を理解する、防災資機材の使用法の習得、避難場所の確認や避難経路の確認などがあります。日頃から近隣の方と顔見知りになり、地域での協力態勢を作っておきましょう。



消火用

## 消火訓練のポイント

- 1 消火器の使い方を学んだり、濡れた布や毛布による初期消火の訓練をしましょう。
- 2 隣近所の人や地域の人と連携してバケツリレーの練習を行うなど、消火活動ができる体制をつくりましょう。
- 3 バケツリレーなどの消火活動訓練のほか、「火を出さない」ための工夫や日頃注意する点を確認し合いましょう！



## 避難訓練のポイント

- 1 いざというときに、避難場所まで確実にいけるように実際に行ってみましょう。
- 2 要配慮者の避難訓練や幼児・児童の家族引き渡し訓練を行いましょう。
- 3 火災、地震、水害など、災害の種類によって違う避難方法を確認しましょう。
- 4 避難所に避難した際の手順や避難所でのルールの確認を行いましょう。

## 避難所での過ごし方

避難所は、多くの人たちと共同で生活する場となります。限られた生活スペースの中で、どのように過ごせばよいでしょうか。

### 係の人の指示に従った行動

集団で生活しなければならない避難所では、避難所を運営する人の指示に従い、ルールを守って行動しましょう。

### 適度な散歩と体操

避難生活中はストレスがたまったり、エコノミー症候群になることもあります。そうならないよう時々、体を動かして気分転換をしましょう。

### 周囲の人との助け合い

避難生活を乗り切るためには、まわりの人たちと協力し合いながら、避難所を運営する人とともに、積極的に行動しましょう。



災害に備える

エコノミー症候群

長時間狭い場所でじっとしていることが原因で、足の血管内に血のかたまりができてしまう病気。症状が重いときは、腹痛、呼吸困難、失神等の症状を引き起こすこともあります。



## 生活の場を 基盤とし 支え合う地域づくり

地域に住む婦人たちが広報による情報発信や普通救命講習などを通して、地域の生活者と密着した活動を展開しています。地域の防災組織と連携し「安全で安心して暮らせるまちづくり」「顔の見える関係づくり」を行い、支え合える地域づくりの一助となります。

## 地域社会に 貢献できる 子どもたちを育成

消防クラブでの活動を通して、子どもが防火・防災に関する様々な知識や技術を身につけるよう取り組んでいます。防火図画の作成、初期消火訓練などに取り組み、将来、災害予防や地域社会に貢献できる子どもたちを育成しています。

## 校区コミュニティを 中心に 安全で安心な まちづくり

小学校区ごとに協議会を結成し、情報共有や連絡調整を円滑にしています。また、自主防災組織を設置し、工夫を凝らした防災訓練などを行い、安全で安心なまちづくりを推進しています。



自主防災組織、消防団から活動について聞きました

# 自分たちのまちは、 自分たちで守る!

インタビュー



## 地域に密着した防災機関として 市民と手を携える

枚方市消防団は、地元の校区コミュニティや自主防災会等とともに自主防災訓練や防災指導を行い、安全で住みやすい地域社会をめざしています。また、消防団員が地域の防災リーダーとなって、住民の防災意識の高揚と防災行動力の向上を図り、地域防災力を高めています。

## 地域の防災力向上のため 防災の中心的役割を担う

寝屋川市消防団では、地域防災の要として地域の皆さんを災害から守るため各種訓練等の消防団活動に取り組んでいます。消防団員が、地域防災組織の指導者として地域の防災体制の強化、防災力の向上の中心的役割を担います。



# 要配慮者・避難行動要支援者とは？

高齢者や障害を持つ人を要配慮者と言い、要配慮者の内、災害時、特に支援が必要な方を避難行動要支援者と言います。市では対象となる人の名簿を作成しています。



## 例えばこんな人

### 避難行動要支援者

- 要介護3以上の高齢者
- 療育手帳Aを交付されている方
- 身体障害者手帳1・2級を交付されている方
- 精神障害手帳1級を交付されている方

※ただし、心臓・じん臓機能障害を除く

※上記の要件に該当する方であっても、各自治体において一部対象とならない場合や、上記以外の対象要件を設けている場合があります。詳細は居住する市役所担当課へお問い合わせください。

Try!

## あなたにもできる支援があります！

### 1 地域の防災上の環境の点検

災害発生時に要配慮者を支援し、適切な避難誘導を行うためには、日頃からコミュニケーションを図り、地域内の要配慮者の状況を把握しておく必要があります。また、避難路における障害物の有無や、車椅子で通れるかなどの点について、地域の防災上の環境を点検しましょう。

### 2 地域の支援体制づくり

災害発生時における救出活動や情報の伝達、避難誘導や避難所での支援について、視覚障害や聴覚障害など障害の種類に応じた支援方法など、自主防災組織の活動の中で具体的に決めておきましょう。

### 3 日頃のコミュニケーション

常日頃から災害時における避難経路の安全確認をはじめ、家具の転倒防止対策の手助けやアドバイスなどを通じてコミュニケーションを図っておきましょう。



### 4 避難誘導・避難所での支援

災害発生時には、安否確認とともに、集団避難における協力体制が必要となります。また、避難所においては、安心して生活できる居住空間を確保するための支援(安全な移動経路や介護スペースの確保、毛布等の緊急物資の優先配布、要配慮者に必要な生活・医療・福祉情報の提供など)や心くばりが必要です。